

令和6年度 福井県立清水特別支援学校 学校関係者評価書（案）

<p>(問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の目標に対する成果や課題の分析は適切か。 ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。 ・その他
<p>(意見を聞いた方)</p> <p>学識経験者、島寺地区自治会長、PTA会長、（欠席：保育関係者、福祉関係者、同窓会会長）</p>
<p>(ご意見等)</p>
<p>○教育課程・学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳はあるが、保護者は先生のことばで知りたいので、メモ程度でも安心できる。 ・知りたい、わからないことがあっても聞けなかったり、子どもに聞いてもわからなかったりするので、日頃の情報発信は大切である。 ・4月の段階で新たな教員が担当になったときに、子どもの特性について引継ぎされているのか不安になることがある。 ・各教員は紙媒体では昨年度までの状態を確認しているかもしれないが、実際の子どもの状態を見て、引継ぎを行っているのか。そうすれば、子どもへの理解もより深まり、支援や対応に生かされる。 ・保護者としては、積み上げてきたはずのことを、春先に毎回、説明し直すことになると、1か月が無駄に感じたり、不信感につながったりすることもある。 ・個別の教育支援計画が、十分に生かされていないのであれば、教員間の共有の仕方が課題となり、改善策・向上策にどうしていくかを記載したほうがよい。
<p>○生徒支援a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルに関して、何が課題なのかわかりにくく、それがどのように改善策・向上策に盛り込まれているのかも明記されていない。すべてを羅列する必要はないが、一例でも具体的な記載があるとよい。
<p>○生徒支援b</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性教育の取組はよい。小学部で行ったことが、中学部、高等部の性教育で積み上がっていくとよい。時間はかかるが、生活の中で子どもの成長を感じられる。 ・障がいの軽重にかかわらず、性教育は人権上も大切であり、障がいの程度に合わせた取組を続けて欲しい。
<p>○進路支援 a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所見学案内では、事前にその事業所がどのような障がいの人を対象としているのか、入所定員に空きがあるのかどうかといったデータが欲しい。見学して好印象を持って、実際は異なる障がい種を対象としていたり、入所定員枠が埋まっていたりすると、仕事を休んで見学会に参加している保護者にとっては、徒労感も増す。 ・対象を絞った事業所見学を設定することが、改善策・向上策になるのではないかな。 ・教員が付き添わなくてもよい事業所があるのなら、学校は日程調整だけしてもらえれば、もっと多くの保護者が参加しやすくなり、事業所見学の意義が高まるのではないかな。
<p>○進路支援b</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもにあった事業所はどういったところかななどの情報を早めに知りたい。
<p>○交流及び共同学習a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同年代を中心に交流していることがよくわかる。 ・地区住民とのかかわりが薄いからか、清水特別支援学校がどこにあるかを知らない住民も多い。特別支援学校のイメージも従来の特殊教育であって、馴染みがなく理解が低いことも、課題ではないかな。 ・島寺地区のお祭りもあるので、そこに参加できないかとか、地域の子どもの親や祖父母世代との交流についても考えていくとよいのではないかな。
<p>○交流及び共同学習b</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは興味関心があって検索するので、チラシなどの配付の方が、地域には有効かもしれない。まずは、学校を知ってもらい、それから子どもを知ってもらい、互いに理解を深めることが大切だろう。 ・地区の老人会でも交流を呼びかけることは可能であり、地区内だけに限らず高等部の販売会などのチラシ配付についても協力できる。
<p>(学校関係者評価を踏まえた今後について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区代表者は自治会長の任期（暦年）で委員在任期間を決めるのではなく、年度で委嘱すべきであろう。その方が、年度を通して、学校の取組について建設的な話し合いができ、インクルーシブ教育もより推進できるだろう。